

事務事業評価シート

(H.29)No.	1060	(H.28)No.	1060
-----------	------	-----------	------

事務事業名	個別乳幼児特別支援事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
福祉子ども部	子ども発達支援センター	岡崎 みどり	

会計区分	事業コード	191801
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 民生費	子ども発達支援推進事業	
項 児童福祉費	(小事業名)	
目 児童福祉総務費	個別乳幼児特別支援事業	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政 策	1	支え合い健康でいきいきと暮らせるまち
	基本施策	3	地域福祉の充実
	施 策	3	子ども・子育て支援
重点プロジェクト			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)	発達障害の早期発見早期支援を行うことにより、心理機能の適正な発達および円滑な社会生活の促進を図り、もって発達障害児の自立及び社会参加に資することを目的とします。
事業内容	保健、福祉、教育、保育、医療などの関係機関が連携し、専門機関による支援を総合的かつ継続的に行うため、就学前の発達障害のある乳幼児の個別支援を行い、就学後の支援に引き継ぐ個別乳幼児特別支援事業を実施しています。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.28年度(事業量・取組実績)		H.29年度(事業量・取組計画)		H.30年度(事業計画)			H.31年度(事業計画)			H.32年度(事業計画)		
主な事業の実績・計画	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会(3回)、作業部会(9回)の開催 研修会開催(対象:各機関、保護者(4回)、保幼小中コーディネーター(8回)) 専門的な個別支援に関わる児童発達支援センターどれみとの連携 		<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会、作業部会の開催 研修会開催(対象:各機関、保護者、保幼小中コーディネーター) 専門的な個別支援に関わる児童発達支援センターどれみとの連携 		<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会、作業部会の開催 研修会開催(対象:各機関、保護者、保幼小中コーディネーター) 専門的な個別支援に関わる児童発達支援センターどれみとの連携 			<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会、作業部会の開催 研修会開催(対象:各機関、保護者、保幼小中コーディネーター) 専門的な個別支援に関わる児童発達支援センターどれみとの連携 			<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会、作業部会の開催 研修会開催(対象:各機関、保護者、保幼小中コーディネーター) 専門的な個別支援に関わる児童発達支援センターどれみとの連携 		

	H.28年度(決算見込)		H.29年度(作成時予算額)		H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)
	H.27繰越分	H.28現年分	H.28繰越分	H.29現年分			
①直接事業費		2,746千円		2,747千円	2,747千円	2,747千円	2,747千円
内訳(千円)	国・県支出金	1,103		917	917	917	917
	地方債						
	その他()						
一般財源	0	1,643	0	1,830	1,830	1,830	1,830
人工数	職員	0.41人		0.57人	0.57人	0.57人	0.57人
	臨時職員等	0.00人		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
②概算人件費	0千円	3,075千円	0千円	4,275千円	4,275千円	4,275千円	4,275千円
①+②総事業費	0千円	5,821千円	0千円	7,022千円	7,022千円	7,022千円	7,022千円

4. 担当室による事務事業の点検

考察(H.28年度(取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など))	平成19年から事業を実施し、本事業が徐々に定着しつつあります。総合的かつ継続的な支援を実施するには、関係機関との連携の更なる強化が必要であり、課題も残されています。引き続き当該事業を含めた施策の推進により、子育て・子ども支援と障害者福祉の市民意識調査の指標向上に寄与します。
-------------------------------------	---

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】	継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)	引き続き小学校への円滑な移行と小中学校における移行後の支援継続を進めます。さらに、事業開始から10年が経過し、今後は事業の振り返りや卒業後も見据えた支援の在り方などを関係機関とともに検討していく必要があります。発達支援の推進にあたり、子どもセンターを活用した取組を実施し、名張市内の全ての子ども達が地域や家庭の中で、安心して生活できる「産み育てるにやさしいまち名張」の実現を目指します。	
	6. 事務事業の取組に関する市の計画	
	ぱりっ子すくすく計画 名張市障害者福祉計画	